

(案)

令和 8 年 2 月 日

三郷市長 木津 雅晟 様

三郷市まちづくり委員会
委員長 篠宮 尚

第 5 次三郷市総合計画後期基本計画について（答申）

令和 7 年 2 月 21 日付け三企発第 174 号で諮問のあった第 5 次三郷市総合計画後期基本計画等について、当委員会で慎重に審議した結果を次のとおり答申します。

答 申

第 5 次三郷市総合計画後期基本計画（案）について、近年の社会情勢の変化や三郷市の状況を踏まえつつ、これまでも委員会の中で議論を重ねてきました。当委員会で慎重に審議を重ねた結果、妥当と認めます。

なお、委員会において、意見、要望があったため計画の運用について別紙のとおり付記します。

【別紙】

- 市が実施した人口推計によると、三郷市でも人口減少・少子高齢化が進行すると見込まれている。10年後、20年後の市の状況を踏まえ、今から計画的に必要なまちづくりを進めてほしい。また、そのような中でも、地域間格差が無く教育や保育、福祉を受けられるよう努めてほしい。
- 人口減少・少子高齢化が進み、各分野で人材確保の困難化が加速することが懸念される。今後も引き続き、DXの推進や最新技術の活用を進めるとともに、公共交通、保育、福祉など、機械に代替させることが難しい分野への担い手の確保に努めてほしい。
- 災害時には、市民一人ひとりが自らの判断と行動で身を守ることが必要不可欠であり、地域の声掛けや助け合いが命を守ることに繋がる。災害に対する日頃からの備えの必要性や防災・減災の意識を高めるなど、自助・共助の醸成に力を入れてほしい。
- すべてのこども・若者の健やかな成長や幸せの向上のためには、肯定的・開放的な関係の中に自分の居場所を持つことが不可欠な要素である。こどもや若者が孤独・孤立を抱えないよう、家庭や学校以外にも安心できる第三の居場所づくりを進めてほしい。
- こどもの健やかな成長のためには、保護者が育児困難や育児疲れを抱えないことが重要である。安心してこどもを生み育てることができるよう、孤立化の防止、経済的負担の軽減、子育てと仕事の両立など、多方面から子育て世帯を支援してほしい。
- 少子化が進む中でも、教育の質を維持することはすべてのこどもの生きる力を育むために必要である。小中学校の適正規模・適正配置など、地域の結びつきも含めた教育環境の整備を進めてほしい。
- 上下水道をはじめ、施設やインフラは市民生活や財産を支える基盤である。ひとたび災害や事故が生じれば被害は広範に及ぶことから、市の責務は非常に大きい。安心して使い続けられるよう維持管理を徹底してほしい。
- 読書は、言葉を学び、感性や表現力を磨き、人生をより深く生きる上で欠くことのできないものである。「日本一の読書のまち三郷」の推進をはじめ、読書啓発に努めてほしい。
- 三郷市では、外国人住民の割合は年々増加傾向にある。日本人住民と外国人住民が同じ地域の一員として共に生きていくため、多文化共生の推進に努めてほしい。
- 行政サービスの維持には、財源確保をはじめ、地域の担い手を確保する必要があり、地域の過疎化・高齢化に歯止めをかける必要がある。暮らし続けられるまちであり続けるために、三郷市が“選ばれるまち”、“こどもを産み育てたいまち”となるよう取り組んでほしい。